

# 陽春だより

すべては生徒のために 笑顔と感謝あふれる学校

第 5 号 令和3年9月15日(水)

川口市立芝西中学校陽春分校  
〒332-0034  
川口市並木1-26-1  
TEL 048-497-1893  
FAX 048-497-3981



## 「疾風に勁草を知る」

教頭 佐藤幸夫

今夏、コロナ感染拡大という厳しい状況の中、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。生徒の皆さんも、今の状況がとても厳しいと感じていることもあると思います。今回は少し難しい内容かもしれませんが、皆さんに伝えたいと思います。

「疾風に勁草を知る」とは、「激しい風が吹いて初めて強い草が分かる」という意味で、厳しい試練にあって初めてその人の意志や信念の強さが分かるということだと、2004年アテネオリンピックで陸上のハンマー投げの金メダリストである室伏広治選手がインタビューで答えていました。

スポーツ界において、オリンピックというものは、いちばん激しい風が吹いている場所で、どんなに素晴らしい強い選手でも、ほんの小さな気のゆるみさえ許されない場です。オリンピックという世界のトップクラスだけが集まる大会は、過酷なレースにおいて本当に強い者がわかり、自分自身の精神力の強さが問われる場です。

室伏選手はまさにその過酷な場で、自ら「強い草」であるという事を証明し、金メダルに輝いたメダリストです。そもそも投てき(ハンマー投げ・やり投げ・円盤投げ・砲丸投げ)競技は、体格の劣る日本人には諸外国の選手に比べ無縁なものと思われていました。

室伏選手は、いろいろな工夫をしてトレーニングをしました。

自分の体の中に中心を作り、それを軸にもものすごい速度で回転するハンマー投げは、力んではいけない、力を抜いて、でも中心の軸はぶれないように保たなければなりません。「力まずに、力をぬいて、力を出す」言葉にすると、とても難しいことです。室伏選手は、自分に必要なことに対する感覚を研ぎ澄まし、いろいろな練習を自ら考案して行いました。その中で自分のモノになる感覚がひとつずつ増えていきました。それが精神力の強さにつながったと考えられます。

慣れることも大事ですが、刺激=トラブルが必要であると聞いたことが何度もあります。「85%の慣れ・15%の刺激」が、良い結果を生み出すこともあるそうです。トラブルは、工夫をする絶好のチャンス、そして、強い風に耐える草になる一つの道なのです。

試練は「力試しのチャンス」と考えよう

常に新しいことにチャレンジし、対応力を磨いていこう





ようしゅんぶんこう <sup>せいと</sup>  
 陽春分校にいる生徒のみなさんの  
 ぼくご <sup>か</sup>  
 母国語で「ありがとう」と書いてあります。

イラストやデザインにそれぞれの  
 こせい <sup>すてき</sup>  
 個性があつて素敵ですね。

「きりつ」「れい」「ちゃくせき」  
 「こんにちは」「こんばんは」  
 「さようなら」「ありがとう」  
 「ごめんなさい」「どういたしまして」  
 しゅうが <sup>くに</sup> <sup>なまえ</sup> <sup>しゅうかん</sup>  
 週替わりで「〇〇(国の名前)週間」として  
 はじ <sup>かい</sup> <sup>はっせい</sup>  
 まりの会のときにネイティブの発声のあと、  
 ふくしゅう  
 復唱します。

